

地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 後期 第10回)のご案内

field petrology — 野外調査は未知への扉 —

平島 崇男
京大理・地球物質科学

1990年の9ヶ月間、文部省在外研究の制度を利用して、イタリア・トリノ大学に滞在し、世界で初めて超高压変成岩(Chopin, 1984)が見出された西アルプス、ドラマイラ岩体の地質調査を行うことにした。その理由は単純で、C.Chopin博士の大発見から十分な時間が経過したにもかかわらず、超高压変成岩を産する地域の詳細な地質構造が報告されなかったからである。

出発に際し、多くの方から色々な助言を頂いたなかで、以下の2点を紹介しておく：

- ・アルプスは地質の先進地域だから、新しいことを見つけるのは難しいよ！
- ・当地では自由に研究してよいが、ヨーロッパの岩石学界のボスである某教授には逆らうな！

トリノ滞在中、週末に地質調査、次の調査日までに岩石薄片の作成とその観察+機器分析+文献調査、という至極基本的な作業を続けた。その結果、 $8 \times 10 \text{ km}^2$ の範囲の地質図を作成すると共に、超高压変成岩は $5 \times 10 \times 1 \text{ km}^3$ の薄いナップとして産し、その原岩は約2億年前の大陸地殻であることを明らかにした(Hirajima & Compagnoni, 1993)。さらに、某教授達の学説の一つを覆す確たる証拠の発見(Compagnoni & Hirajima, 2001)というおまけが付いた。地質の先進地域とはいえ、Fieldには未発見の課題が多数残されていたのである。

主として付加体と付加体起源の変成岩で構成されている日本の地質環境で教育された私にとって、ドラマイラ岩体の地質調査を通じて大陸地殻地域の地質調査は新鮮で、かつ、多くのことを学んだ。イタリアでの経験を糧にして、その後、中国・蘇魯超高压変成帯、チェコ・Moldanubian帯、スロバキア・Gemic Unit, キルギス・Makbal Complexなどで海外調査を展開している。

講演では、これまでの野外調査経験に基づいた幾つかのトピックスとこれから研究したいことなどを紹介する。

12月26日(水) 午後4:30~午後6:00

場所：理学研究科6号館 303号室